令和４年度　学校自己評価結果等報告書

学校名（　　豊岡市立日高小学校　　）　校長名（　　村尾　和敏　　印　）

１　学校教育目標

「自ら学ぶ子、学び合う子」

２　学校教育推進の視点

〇確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成
〇連携・一貫教育の推進
〇家庭、地域に開かれた安全で特色ある学校づくり

３　総合的な自己評価

児童にどう考えさせたいかを明確にし、思考ツールとＩＣＴを積極的に活用した授業を積み重ねたことにより、児童に思考法が定着してきた。ブログ等を活用して教育活動の様子を日常的に発信できるようになった。支援を必要とする児童の情報を共有し、チームとして対応することができているが、不登校を生じさせない取組を充実させる必要がある。

５　自己評価方法（児童生徒・保護者・教員に対するアンケート等）についての意見・改善点

〇職員による自己評価　〇参観日での保護者感想　〇児童、保護者、職員によるアンケート
〇学校評議員会での評価　〇学校教育改革推進委員会における協議を実施し、具体的な改善策を組織的に実施する。

６　総合的な外部評価

・学校を取り巻く環境が変化していく中で、学校行事等の実施方法を工夫しながら取り組むことができている。
・問題行動や不登校問題等は上の学校に行っても続く可能性があるので、中学校との情報共有をしっかりする必要がある。
・児童と地域とのつながりを深める取組をさらに充実させていくことを期待する。
・教職員の忙しさの原因となっている業務を軽減し、児童に接する時間を増やせるように工夫する必要がある。

４　自己評価結果（Ａ：達成している　Ｂ：概ね達成している　Ｃ：あまり達成していない　Ｄ：達成していない）

領　域	評　価　の　観　点	評　価　項　目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策
教育課程	・　確かな学力を身に付ける学習指導	・思考を深め合う子どもの育成に向けた授業の展開・工夫 ・少人数授業、複数指導体制、教科担任の研究実践 ・反復学習の徹底、がんばりタイムの充実	B	〇児童の思考を深めるための教師の関与の質の向上 〇個別指導の時間の確保、講師との連携によるがんばりタイムの充実 〇教科担任、少人数授業担当の情報共有と実態に応じた指導方法の工夫 〇道徳授業の公開、児童が自らの成長を実感できるような評価の推進 〇担任とＡＬＴによるティームティーチングの充実、打合せ時間の確保 〇学級会での話合い活動の充実
	・　道徳教育	・兵庫版道徳教育副読本の活用、評価方法の確立 ・他者や自己との「対話」による道徳授業の推進 ・家庭・地域への道徳の授業公開	B	
	・　英語遊び・外国語活動・英語科	・指導内容・事例集の共有と指導の充実、ＡＬＴとの連携	B	
	・　総合的な学習の時間	・体験的活動の充実、コミュニケーション教育・ふるさと教育の実施	B	
	・　特別活動	・わくわく活動、校外児童会、話合い活動の充実	B	
学校運営	・　開かれた学校づくり	・情報発信、オープンスクール、授業参観、懇談会	A	〇教育活動の様子の積極的な発信、ホームページの定期的な更新 〇授業参観・懇談会・学校行事の実施方法の工夫 〇業務コントロール能力の向上、校務支援システムの有効活用 〇小中一貫・保幼小連携の取組の強化と情報共有 〇アセス・生活学習アンケートの有効活用によるきめ細かな対応の充実 〇学習者の感覚を磨く研修のさらなる充実、効果のあった取組の共有 〇登下校指導の充実、安全ボランティア・関係機関との連携の強化
	・　勤務時間の適正化	・定時退勤日、ＩＣＴ化による事務処理の効率化（校務支援システム等）	C	
	・　引継ぎ連携システムの強化	・東中学校区小中一貫の取組、保幼小連携の取組	B	
	・　生徒指導（いじめや不登校の問題を含む）	・生活指導委員会の充実、組織的取組、ＳＣ・ＳＳＷの活用 ・「心の教育」、アセスの活用、わくわくひとり立ち、自立する子	A	
	・　職員研修の推進	・校内研修会、対外研修の伝達・充実、メンタルヘルス研修	A	
	・　危機管理体制の整備	・校内や遊具の安全点検、通学路・危険箇所の点検・整備、コロナ対応	B	
課題教育	・　非認知能力の向上	・演劇ワークショップの参観、全教育活動における非認知能力向上の取組	B	〇非認知能力向上の取組についての校内研修の充実 〇地域の人材や教育資源の開拓と積極的な活用 〇保護者へのコミュニケーション教育の授業公開 〇発達段階に応じたキャリア教育の実践（日高高校との交流等） 〇地域・関係機関と連携した防災・防犯訓練 〇地域の自然を生かした教材の積極的な活用 〇家庭での読書習慣の定着に向けた取組の工夫、読書記録の効果的な活用 〇図書ボランティアによる活動の充実 〇タブレット端末の有効活用、発達段階に応じた情報モラル教育の充実
	・　ふるさと教育	・ゲストティーチャーの活用、体験活動の充実	B	
	・　コミュニケーション教育	・演劇的手法を取り入れた授業、めざすコミュニケーション能力を育成する活動の工夫	B	
	・　キャリア教育	・年間指導計画の更新、実践内容の充実、キャリアノート(キャリアパスポート)の活用	B	
	・　人権教育	・「ほほえみ」の活用、心の広場、学級経営、人権ポスター・標語への応募	B	
	・　特別支援教育	・教育相談活動、特別支援教育研修、児童生徒支援教員との連携	A	
	・　環境教育	・環境体験事業、省エネ	B	
	・　安全教育・防災教育	・防災訓練、（引渡し訓練）、交通安全指導、メモリアルデー	B	
	・　健康教育・食育・体力づくり・運動遊び	・給食指導、新体力テストの分析活用、運動タイム、省ＴＶ、栽培活動の充実、食育の日（噛むDay）、弁当の日、睡眠時間の確保	B	
	・　読書活動	・読書の記録表彰、図書ボランティアの活用、教師の読み聞かせ、読書タイムの充実、蔵書増、家読	B	

自己評価の妥当性

１　「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成
・思考法が定着しつつあり、自分の考えをもち表現できる児童が増えてきた。さらに、仲間と共により確かな考えをつくりあげることができる児童の育成に向けた取組を充実させていく必要がある。
・生活指導上の事案については、速やかに情報共有し、チームで対応することができている。今後も児童理解を深め、指導方法を工夫する。
・ＡＬＴとの打合せの時間をしっかり確保し、活動を充実させる必要がある。

２　連携・一貫教育の推進
・保幼小連携・小中一貫教育の取組や園児・児童・生徒についての情報共有を確実に行う。
・地域の人材や教育資源を有効に活用しながら、地域で学ぶ活動の充実を図る。

３　家庭、地域に開かれた安全で特色ある学校づくり
・家族読書の呼びかけ等、家庭での読書習慣を定着させるための取組のさらなる充実を図る。
・安全ボランティア、関係機関等との連携により、地域全体で児童を見守る取組を進める。
・ブログ等による情報発信が充実してきた。さらに、特色ある教育活動の公開を進める。

４　その他
・不登校傾向の児童への学校全体としての支援体制を工夫する必要がある。
・定時退勤日の取組には個人差が見られる。一人一人の業務コントロール能力を高めなければならない。

※　各教科、領域、行事等に「体験活動」を積極的に通り入れ、教育活動の充実に努める。
※　上記の評価の観点は市統一とするが、各校で特色ある活動・重点項目を追加してもよい。
※　評価項目は各校の実態に応じて設定するが、外部評価者が理解しやすい具体的内容の記述に努める。